

12. 今後の財政の見通し

問11 あなたは、佐久市の今後の財政の見通しについて、どのようにお考えですか。この中から一つ選んで○を付けてください。

【旧佐久市】			％
1	特に問題はない	28	3.5
2	それほど問題はない	79	10.0
3	どちらともいえない	167	21.2
4	ある程度心配である	338	42.8
5	大いに心配である	164	20.8
99	無回答	13	1.6
	合計	789	100.0

【臼田・浅科・望月】			％
1	特に問題はない	21	2.8
2	それほど問題はない	67	8.9
3	どちらともいえない	151	20.0
4	ある程度心配である	339	44.9
5	大いに心配である	164	21.7
99	無回答	13	1.7
	合計	755	100.0

佐久市の財政状況は、客観的な財政指標などを勘案すると比較的健全な部類に入ると言えそうだが、市民の認識としては、今後の見通しについて心配する意見が多く、「大いに心配」と「ある程度心配」を合計すると、旧佐久市・旧町村部のいずれにおいても6割を超える。

こうした財政に対する見通しは、住民投票における投票行動にも一定の影響を及ぼしており、「特に問題はない」と答えた人ではちょうど半数が賛成票を投じているのに対し、「大いに心配である」「ある程度心配である」と答えた人では、いずれも4分の3以上が反対票を投じたと回答している。これらのデータは、会館の建設や維持管理に関する財政負担の問題が、住民投票において大きな争点となっていたことを改めて裏付けるものと言える。

13. 市の行政に対する満足度・市長に対する業績評価

問12 あなたは、佐久市の行政サービスに対してどの程度満足していますか。この中から一つ選んで○を付けてください。

【旧佐久市】		%	
1	大いに満足	6	0.8
2	ある程度満足	197	25.0
3	どちらともいえない	348	44.1
4	やや不満足	167	21.2
5	大いに不満足	58	7.4
99	無回答	13	1.6
	合計	789	100.0

【臼田・浅科・望月】		%	
1	大いに満足	1	0.1
2	ある程度満足	136	18.0
3	どちらともいえない	299	39.6
4	やや不満足	234	31.0
5	大いに不満足	73	9.7
99	無回答	12	1.6
	合計	755	100.0

問13 あなたは、柳田・佐久市長のこれまでの1年半の業績をどのように評価しますか。この中から一つ選んで○を付けてください。

【旧佐久市】		%	
1	大いに評価できる	57	7.2
2	ある程度評価できる	276	35.0
3	どちらともいえない	312	39.5
4	あまり評価できない	94	11.9
5	全く評価できない	41	5.2
99	無回答	9	1.1
	合計	789	100.0

【臼田・浅科・望月】		%	
1	大いに評価できる	57	7.5
2	ある程度評価できる	301	39.9
3	どちらともいえない	283	37.5
4	あまり評価できない	86	11.4
5	全く評価できない	15	2.0
99	無回答	13	1.7
	合計	755	100.0

まず、市の行政サービスに対する満足度を尋ねた問12では、全体としては不満が満足を若干上回る結果となったが、旧佐久市と旧町村部との比較においても、一定の相違が確認できる。「やや不満足」と「大いに不満足」の合計で見た場合に、旧佐久市では3割弱となっているのに対し、旧町村部ではその割合は4割を超えている。臼田・浅科・望月の各地区は合併により佐久市の「周辺部」になったと捉えることができるが、佐久市に限らず「平成の大合併」で誕生した新自治体では、周辺部における行政サービスの低下に対する住民の不満が、各地で伝えられている。そうした傾向が一定程度、数字となって表れたと言えるだろう。ただ、住民投票における投票行動との間でクロスデータを取ると、行政満足度との間で明確な相関関係を読み取ることはできない。

続いて問13では、柳田清二・佐久市長の就任から1年半の業績評価について尋ねている。こちらについては、両地域間の比較において明確な相違はなく、いずれの地域でも4割以上の方が「大いに評価」あるいは「ある程度評価」できると回答している。こうした市長に対する評価は、住民投票を実施したことに対する評価とも密接に関係しており、「大いに評価できる」と答えた人では住民投票の実施を「良かった」とする人がいずれの地域でも9割以上に上る一方、「全く評価できない」という人では住民投票の実施を「良かった」と答えた人は、旧佐久市で約4分の1にとどまり、旧町村部に至っては一人もいない。これらのことから、少なくとも本調査においては、市長に対する業績評価が住民投票を実施したことに対する評価としてなされている側面も多分にあるということ、ここでは指摘することができる。